

表 5.2-5(1) 稼働する建設機械と台数及びA特性音響パワーレベル(工事区域No.143(松本市奈川地区))

稼働する建設機械	規格	台数	低騒音型 ※1	A特性音響パワー レベル(dB)
ラフテレーンクレーン(25t)	機関出力 193kW	2	○	108 ^{※2}
発電機	機関出力 69kW	1	○	102 ^{※2}
電動ドラム(ウインチ)	機関出力 3.7kW	2	△	98 ^{※2}
1.5m 巻取式延線車	機関出力 18.5kW	2	△	98 ^{※2}
1.2m 延線車	機関出力 18.5kW	2	△	98 ^{※2}
バックホウ(0.7m ³)	機関出力 64kW	1	○	101 ^{※2}
空気圧縮機	機関出力 81kW	1	○	105 ^{※2}
コンクリートミキサー車		2	—	100 ^{※3}
ダンプトラック(10t)		1	—	102 ^{※3}

※1 ○：低騒音型建設機械 △低騒音型発電機を電源とした建設機械(電動)

※2 「建設工事騒音の予測モデル “ASJ CN-Model 2007” (日本音響学会誌 64 巻 4 号(2008), p229-260)」

※3 「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック(第3版)(平成13年2月26日, 一般社団法人 日本建設機械施工協会)」

注 稼働する建設機械から発生する騒音の代表周波数は500Hzとして扱うこととする。

表 5.2-5(2) 稼働する建設機械と台数及びA特性音響パワーレベル(工事区域No.191(山形村上大池地区))

稼働する建設機械		規格	台数	低騒音型 ※1	A特性音響パワー レベル(dB)
索道 原動所内	ウインチ	機関出力 81kW	1	△	102 ^{※2}
	ダンプトラック(10t)		1	—	102 ^{※3}
	コンクリートミキサー車		1	—	100 ^{※3}
鉄塔 建設用地内	ジブクレーン	機関出力 24kW	1	△	98 ^{※2}
	バックホウ(0.7m ³)	機関出力 64kW	1	○	101 ^{※2}
	空気圧縮機	機関出力 81kW	1	○	105 ^{※2}
	発電機	機関出力 69kW	1	○	102 ^{※2}

※1 ○：低騒音型建設機械 △低騒音型発電機を電源とした建設機械(電動)

※2 「建設工事騒音の予測モデル “ASJ CN-Model 2007” (日本音響学会誌 64 巻 4 号(2008), p229-260)」

※3 「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック(第3版)(平成13年2月26日, 一般社団法人 日本建設機械施工協会)」

注1 稼働する建設機械から発生する騒音の代表周波数は500Hzとして扱うこととする。

注2 ジブクレーンは発電機の稼働音として扱うこととする。

表 5.2-5(3) 稼働する建設機械と台数及びA特性音響パワーレベル(工事区域No.194(朝日村古見地区))

稼働する建設機械	規格	台数	低騒音型 ※1	A特性音響パワー レベル(dB)
クローラクレーン(50t吊り)	機関出力 132kW	2	○	97 ^{※2}
クローラクレーン(60t吊り)	機関出力 166kW	1	○	98 ^{※2}
発電機	機関出力 69kW	3	○	102 ^{※2}
バックホウ(0.7m ³)	機関出力 64kW	1	○	101 ^{※2}
空気圧縮機	機関出力 81kW	1	○	105 ^{※2}
バキューム車		1	—	102 ^{※3}
ダンプトラック(10t)		1	—	102 ^{※3}
コンクリートミキサー車		1	—	100 ^{※3}
コンクリートポンプ車		1	—	108 ^{※3}

※1 ○：低騒音型建設機械 △低騒音型発電機を電源とした建設機械(電動)

※2 「建設工事騒音の予測モデル “ASJ CN-Model 2007” (日本音響学会誌 64 巻 4 号(2008), p229-260)」

※3 「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック(第3版)(平成13年2月26日, 一般社団法人 日本建設機械施工協会)」

注1 稼働する建設機械から発生する騒音の代表周波数は500Hzとして扱うこととする。

るために事後調査を実施する。